

SDGs

成長につなぐ

— 事例17 コールズ&169ターゲット

2021.3.30(火) (124) 工本

28 大建



建設コンサルタントの大建
(福岡市早良区、松尾憲親社
長 092・851・390

0)は、雨水を地下にためる
タンクの施工実績を海外で増
やしている。安全な水の安定
供給を目指した事業で、国連
の人間居住計画（ハビタツ
ト）などからの依頼による施
工だ。新型コロナウイルスの

影響で海外
渡航が難し
い中、リモ
ートでの施
工も目指し
ている。
タンクは
地面を掘っ
て遮水シー
トを敷き、
砕石を詰め
て土をかぶ
せる。雨水
は砕石の隙
間のため
る。砕石の
間の微生物
の働きなど
で水質を向
上させる。
この仕組
みは国内の
ケニアでの
雨水地下貯
水タンクの
工事

雨水タンク施工、海外実績重ねる



住宅向けに開発。当初は水道
料の削減をポイントとしてお
り、海外展開は「全く考えて
いなかった」（松尾社長）と
いう。ところが、安価かつ施
工や管理しやすいことなどが
ハビタットに認められ、20
14年のラオスを皮切りにベ
トナム、ケニアでの施工に至
る。

ラオスに設置した貯
水タンクからの給水
ケニアでは19年に1
00トを施工した。
海外では施工場所
の選定時に、地域社
会の融和を考慮する
など国内とは違った
配慮が求められる場
合もある。また住む
場所の近くで水を確
保できることは、女
性や子どもによる水
くみの負担を軽減す
ることにもつながる

20年はインドネシアで施工
する予定だったが、新型コロナ
ウイルスの影響で人の移動
が難しくなり、計画は進んで
いない。そこで目指している
のが「リモート施工」だ。イ
ンターネットで現地と連絡し
ながら施工する方法の実現に
向けて、マニュアルの整備に
取り組む。砕石は道路建設で
使われるため、道路がある場
所であれば砕石の確保は可能
とみる。施工場所の土壌や砕
石のチェックなど課題もある
が、松尾社長は「実現させた
い」と意気込んでいる。